

科目番号	51009	分類	履修者	高度実践看護コース	学年		
科目名	治療のためのNP実践演習 (Practice of Treatments for critically ill patients)				1		
					配当セメスター		
					後期		
担当者	草間朋子 他27名	区分	必修	単位	4	時間数	120
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連	
<p>【概要】 治療についての考え方をふまえて、クリティカル領域における治療法の科学的根拠をふまえた適応や治療法の特徴を理解する。治療継続に関わるからだへのメリット・デメリットを理解し、治療計画の変更や終了などの判断ができるための知識を修得する。 また経験する機会が多い事例への特徴的な治療方法についてエビデンスと患者の意思決定に基づいた治療方法の選択と治療していくプロセスを実践的に学ぶ。治療方法を確実に行えるための技術を修得する。また、治療の際の自己の役割・限界を明確にする。</p> <p>【目標】 1. クリティカル領域特有の治療に対する理解を深めるができる。 2. クリティカル領域において遭遇する事例について治療の選択ができる。 3. クリティカル領域の治療に必要な技術を模倣できる。 4. 治療の際の自己の役割・限界を明確にできる。</p>						○	1. 患者・患者家族のニーズに自律的に対応できる実践能力
						○	2. 患者の擁護者として活動できる倫理的意思決定能力
						○	3. 看護・看護学の発展・進化に寄与し社会・時代のニーズに対応した創造的な研究・開発能力
						○	4. 多職種と連携・協働して行われるチーム医療の中で看護職としてのリーダーシップを発揮できる能力
授業計画							
回	内容						担当教員
第1回	<p>I. 救急・重症患者の管理</p> <p>1. 循環動態のモニタリングと薬物（カテコラミン・降圧剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> 循環動態に関する局所解剖 循環動態に関する主要症候 カテコラミン製剤の種類と臨床薬理 各種カテコラミン製剤の適応と使用方法 各種カテコラミン製剤の副作用 降圧剤の種類と臨床薬理 各種降圧剤の適応と使用方法 各種降圧剤の副作用 						草間 他27名
第2回	<p>2. 初期輸液と維持輸液</p> <ul style="list-style-type: none"> 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の適応と禁忌 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク（有害事象とその対策等） 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の臨床薬理 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の適応と使用方法 持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の副作用 糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 各種糖質輸液、電解質輸液の副作用 利尿剤の種類と臨床薬理 各種利尿剤の適応と使用方法 各種利尿剤の副作用 						
第3回	<p>3. 不整脈への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 一時的ペースメーカーの目的 一時的ペースメーカーの適応と禁忌 一時的ペースメーカーに伴うリスク（有害事象とその対策等） ペースメーカーの種類とメカニズム ペースメーカーのモードの選択と適応 						

第4回	4. 呼吸状態の管理
第5回	・経口又は経鼻気管挿管の目的
第6回	5. 感染予防と対応（薬物療法含む）
第7回	・感染症の病態生理
第8回	6. 意識レベルの管理
第9回	7. 熱傷の管理
第10回	II. 集中治療の管理
第11回	1. ショック患者の管理
第12回	・動脈血液ガス分析が必 要となる主要疾患とその病態
第13回	2. ICUにおける血糖管理と人工栄養療法
第14回	・インスリン療法の目的
第15回	3. 各種カテーテル・ドレーナージチューブ管理、低圧持続吸引装置
第16回	・低圧胸腔内持続吸引の適応と禁忌
第17回	・低圧胸腔内持続吸引に伴うリスク（有害事象とその対策等）
第18回	・低圧胸腔内持続吸引器のメカニズムと構造
第19回	<主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習>
第20回	III. がん化学療法とペインコントロール
第21回	1. がん化学療法
第22回	2. がん疼痛の薬物療法
第23回	3. 痛みの緩和と鎮静療法（硬膜外からの鎮痛薬投与を含む）
第24回	・抗癌剤の種類と臨床薬理
第25回	・各種抗癌剤の適応と使用方法
第26回	・各種抗癌剤の副作用
第27回	4. 抗癌剤投与に伴う障害とその対処法（薬剤漏出等）
第28回	・抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの病態生理
第29回	・抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの症候と診断（ペーパーシミュレーションを含む）
第30回	IV. 治療に必要な技術
第31回	1. 呼吸管理の技術
第32回	1) 病態に応じた人工呼吸器の使用：換気障害
第33回	病態に応じた人工呼吸器の使用：低酸素
第34回	・人工呼吸療法の目的
第35回	・人工呼吸療法の適応と禁忌
第36回	・人工呼吸療法に関する局所解剖
第37回	・人工呼吸器管理の適応と禁忌
第38回	・人工呼吸器のメカニズム・種類・構造
第39回	2) 病態に応じた人工呼吸器の設定変更
第40回	3) 気管挿管・抜管の時期の判断とその方法
第41回	・侵襲的陽圧換気の設定の目的
第42回	・侵襲的陽圧換気の設定条件の変更の適応と禁忌
第43回	・侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）
第44回	・侵襲的陽圧換気を選択と適応
第45回	4) 人工呼吸器装着中の患者の離脱管理
第46回	・非侵襲的陽圧換気の目的
第47回	・非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌
第48回	・非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）
第49回	・非侵襲的陽圧換気の設定条件の選択
第50回	5) 人工呼吸器使用上における基礎的知識（NPPV 含む）
第51回	6) 人工呼吸器装着中の患者の鎮静
第52回	・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静の目的
第53回	・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静の適応と禁忌
第54回	・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク（有害事象とその対策等）
第55回	・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量
第56回	・人工呼吸器からの離脱の目的
第57回	・人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌
第58回	・人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等）

第20回	7) シミュレータを用いた気管挿管の実際 ・気管カニューレの適応と禁忌 ・気管カニューレの構造と選択	
第21回	8) 気管カニューレの交換 9) 気管チューブの位置調整 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク (有害事象とその対策等)	
第22回	2. 外傷時の治療 1) 縫合 ・創部哆開創のアセスメントと治療	
第23・24・25回 第26回	2) 縫合の実際 3. ショックの事例における治療技術 1) 出血性ショックに対する圧迫止血 ・創部ドレナージに関する局所解剖 ・創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理	
第27回	4. 胸腔穿刺・腹腔穿刺の適応と技術 1) 胸腔穿刺(緊張性気胸等も含む) ・胸腔ドレーンの抜去の適応と禁忌 ・胸腔ドレーンの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)	
第28回	2) 腹腔穿刺 ・腹腔ドレナージの抜去の適応と禁忌 ・腹腔ドレナージの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)	
第29回	5. 栄養管理の技術 1) 経腸栄養 2) 胃ろう・腸ろうカテーテルとボタン交換 ・胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうに関する局所解剖 ・胃ろう及び腸ろうの目的 ・胃ろう及び腸ろうの適応と禁忌 ・胃ろう及び腸ろうに伴うリスク(有害事象とその対策等)	
第30回	3) CV 穿刺法と合併症 ・中心静脈カテーテルに関する局所解剖 ・中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理 ・中心静脈カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント ・中心静脈カテーテルの抜去の適応と禁忌 ・中心静脈カテーテルの抜去に伴うリスク(有害事象とその対策等)	
第31回 第32回	4) 高カロリー輸液 5) PICCとMHポート ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の フィジカルアセスメント	
第33・34・35回 第36回	演習(内容: 30~32回) 6. 褥瘡の管理 1) 褥瘡の治療 ・褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的 ・褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 ・褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う リスク(有害事象とその対策等)	
第37・38回	2) 褥瘡をもつ患者のデブリーメント ・皮膚、皮下組織(骨を含む)に関する局所解剖 ・主要な基礎疾患の管理	
第39回	3) 陰圧閉鎖療法 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴うリスク(有害事象とその対策等)	

第40回 第41回 第42回 第43回 第44回 第45回 第46回	<p><主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習> V. クリティカル領域で遭遇する疾病に対する薬物治療 (事例を用いて学生が実際に展開する)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 発熱の事例における薬物療法の実際 2) 腹痛の事例における薬物療法の実際 3) 脳卒中事例における薬物療法の実際 4) 呼吸困難の事例における薬物療法の実際 5) 血糖値・電解質異常の事例における薬物療法の実際 (ｲﾝｽﾘﾝ他) 6) 胸痛の事例における薬物療法の実際 7) ショック事例における薬物療法の実際
第47・48回 第49回	<p>VI. 四肢・頭部外傷の評価と治療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 四肢 2) 頭部 <ul style="list-style-type: none"> ・創部ドレーンの抜去の適応と禁忌 ・創部ドレーンの抜去に伴うリスク (有害事象とその対策等)
第50回 第51回 第52回 第53回	<p>VII. 循環器に関するME 機器の管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ペースメーカーとその管理 <ul style="list-style-type: none"> ・一時的ペースメーカーリードの抜去の目的 ・一時的ペースメーカーリードの抜去の適応と禁忌 ・一時的ペースメーカーリードの抜去に伴うリスク (有害事象とその対策等) 2) PCPS とその管理 <ul style="list-style-type: none"> ・経皮的心肺補助装置の目的 ・経皮的心肺補助装置の適応と禁忌 ・経皮的心肺補助装置とそのリスク (有害事象とその対策等) ・経皮的心肺補助装置のメカニズム 3) IABP とその管理 <ul style="list-style-type: none"> ・大動脈内バルーンパンピングの目的 ・大動脈内バルーンパンピングの適応と禁忌 ・大動脈内バルーンパンピングに伴うリスク (有害事象とその対策等) 4) 血液透析濾過器とその管理 <ul style="list-style-type: none"> ・急性血液浄化療法に関する局所解剖 ・急性血液浄化療法を要する主要疾患の病態生理 ・急性血液浄化療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント
第54回	<p>VIII. 排泄障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 膀胱ろうカテーテルの管理と交換 <ul style="list-style-type: none"> ・胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうに関する局所解剖
第55回 第56・57回 第58・59・60回	<p>IX. 特定行為に係る看護師の研修制度及び手順書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膀胱ろうの目的 ・膀胱ろうの適応と禁忌 ・膀胱ろうに伴うリスク (有害事象とその対策等) ・気管切開に伴うリスク (有害事象とその対策等)
第58・59・60回	X. 治療を受ける患者への支援
事前・事後 学習	<p>事前学習：当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習：授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間 (学生便覧参照) を参考に組み組むこと。</p>
評価の方法	<p>筆記試験で評価する。 フィードバックは適宜行う。</p>
参考図書 ・資料等	適宜紹介する。
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。